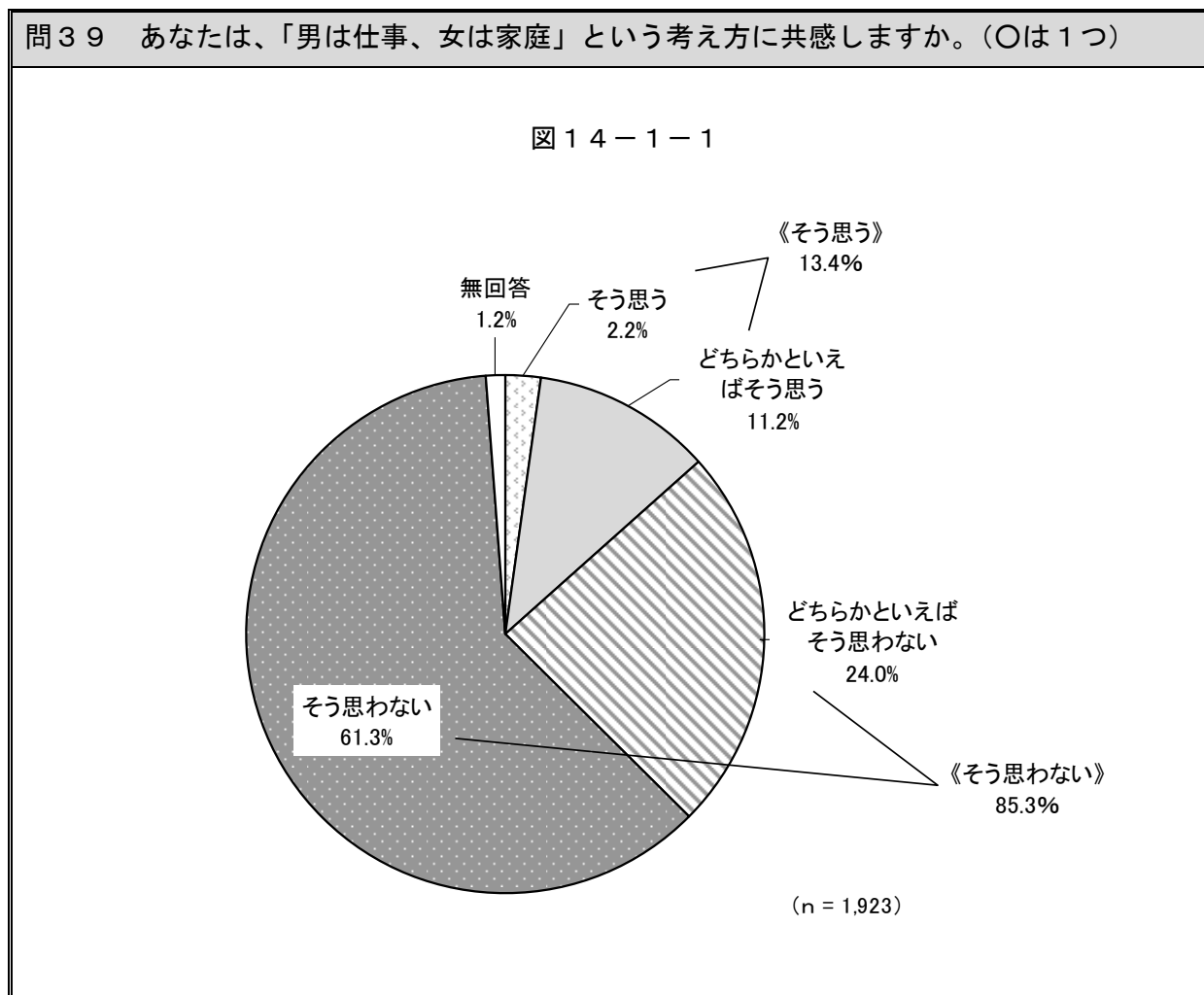


## 14. 男女共同参画の推進

### (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

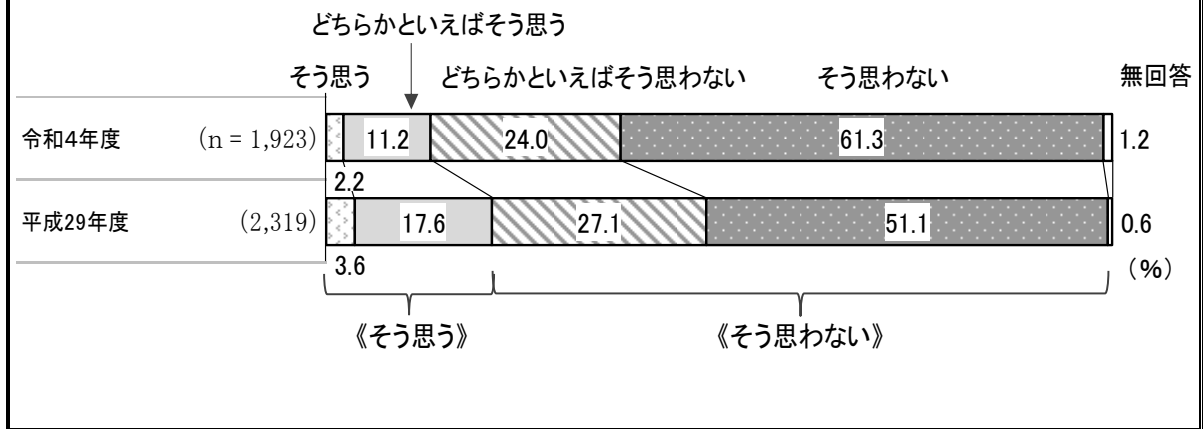
◎ 《そう思わない》が8割半ば



「男は仕事、女は家庭」という考え方について共感するか聞いたところ、「そう思わない」(61.3%)が6割を超えて最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(24.0%)と合わせた《そう思わない》(85.3%)が8割半ばとなっている。「どちらかといえばそう思う」(11.2%)と「そう思う」(2.2%)を合わせた《そう思う》(13.4%)は1割を超えている。

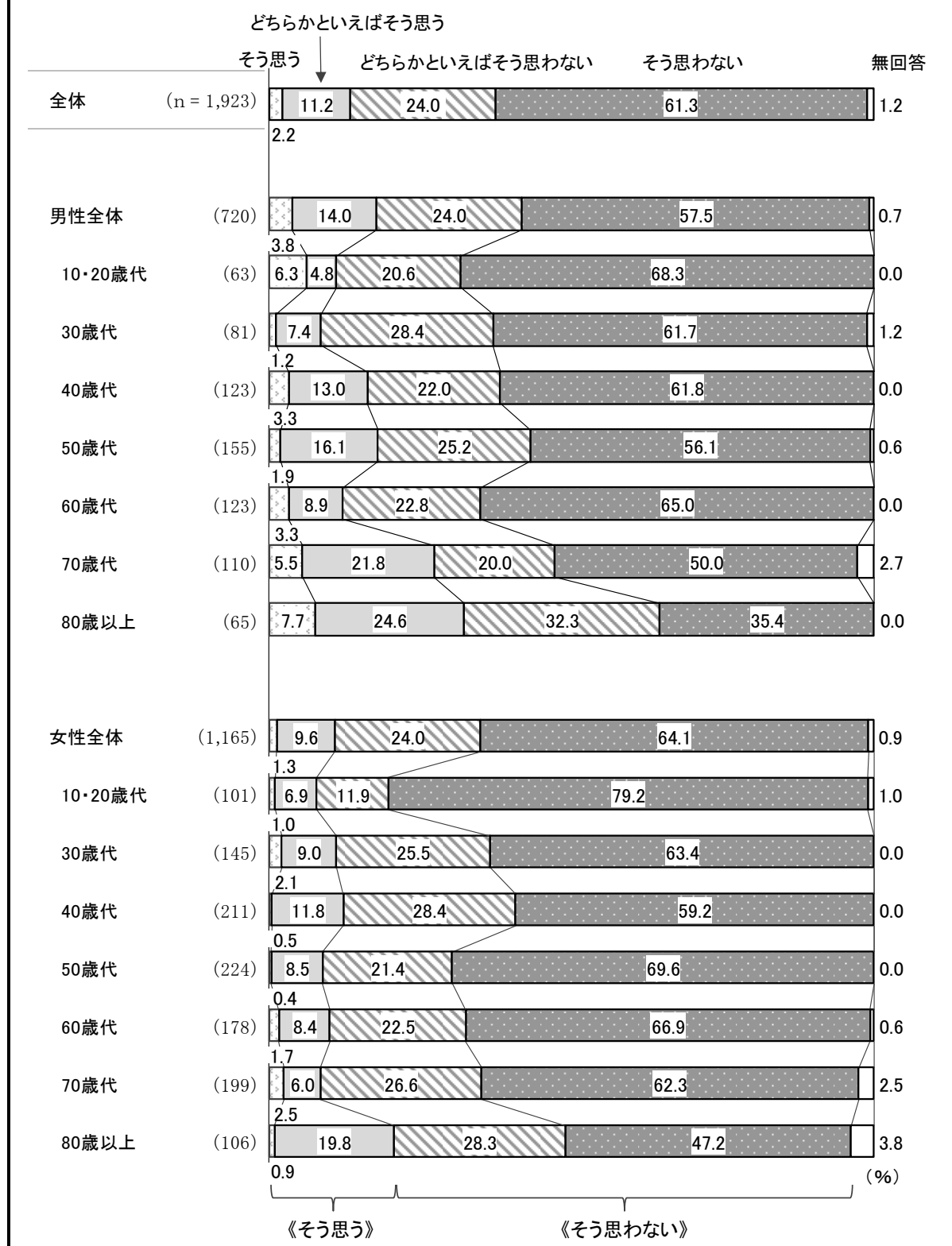
(図14-1-1)

図14-1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（時系列）



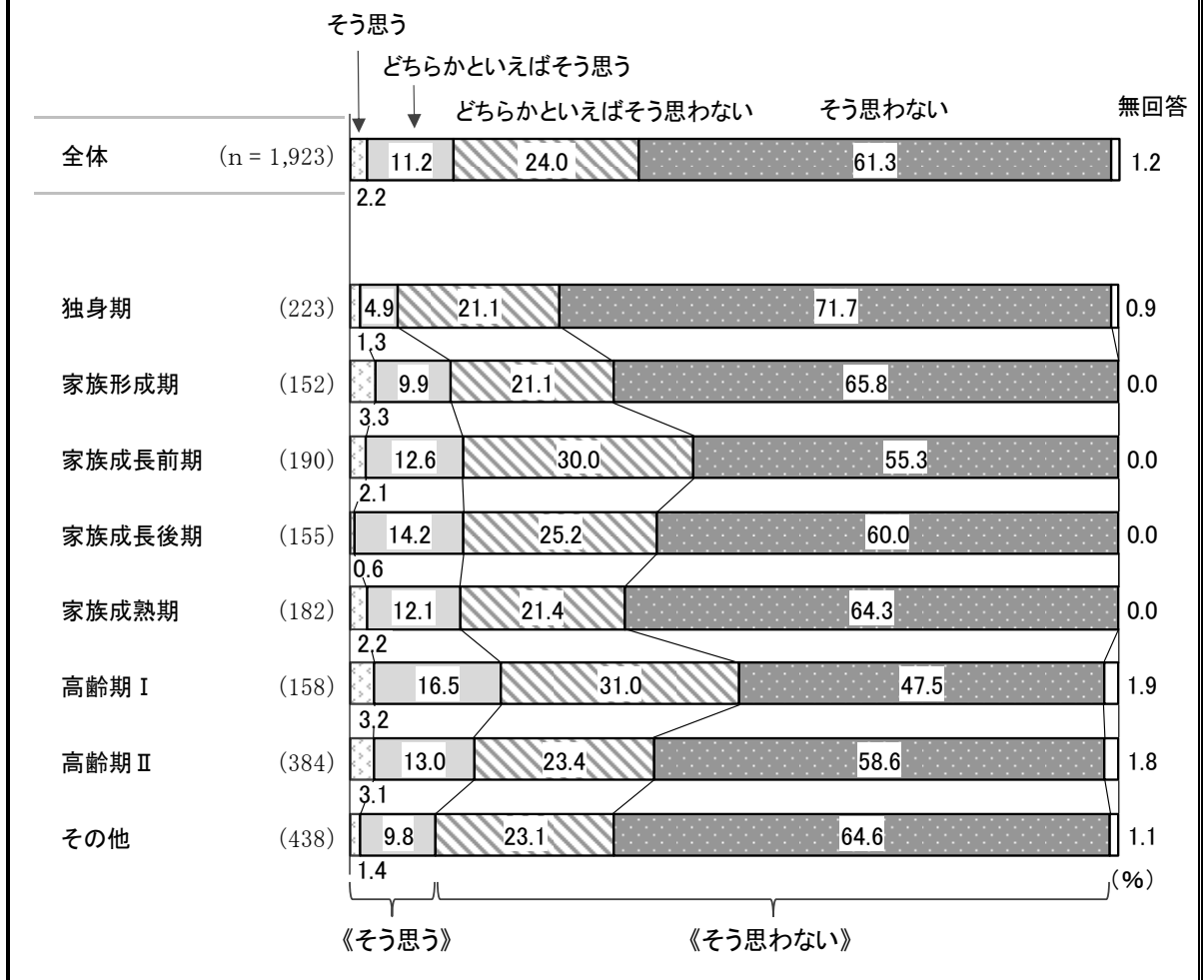
平成29年度からの時系列の変化をみると、《そう思う》は平成29年度（21.2%）から令和4年度（13.4%）で減少している。《そう思わない》は平成29年度（78.2%）から令和4年度（85.3%）で増加している。（図14-1-2）

図 1 4 - 1 - 3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について (性・年齢別)



性・年齢別にみると、《そう思う》は男性、女性ともに80歳以上が高く、男性の80歳以上で3割を超え、女性の80歳以上ではほぼ2割となっている。一方、《そう思わない》は女性の10・20歳代で9割を超え、男性の30歳代で9割となっている。(図14-1-3)

図 1 4 - 1 - 4 「男は仕事、女は家庭」という考え方について (ライフステージ別)



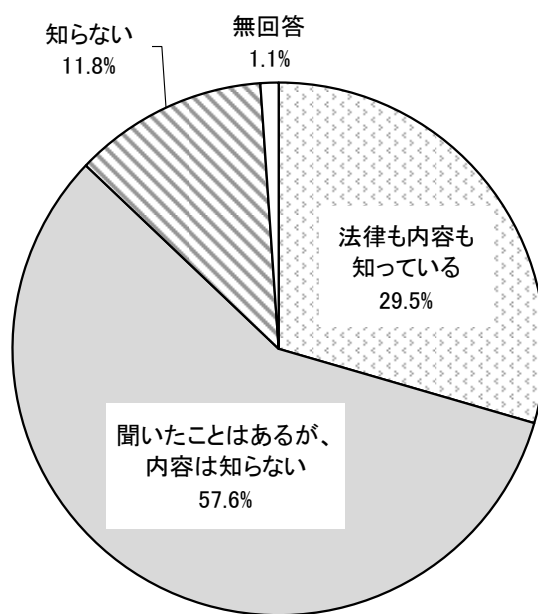
ライフステージ別にみると、《そう思う》は高齢期 I で 2 割となっている。《そう思わない》は独身期で 9 割を超えている。(図 1 4 - 1 - 4)

(2) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度

◎ 「聞いたことはあるが、内容は知らない」が6割近く

問40 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」(DV防止法)を知っていますか。(○は1つ)

図14-2-1

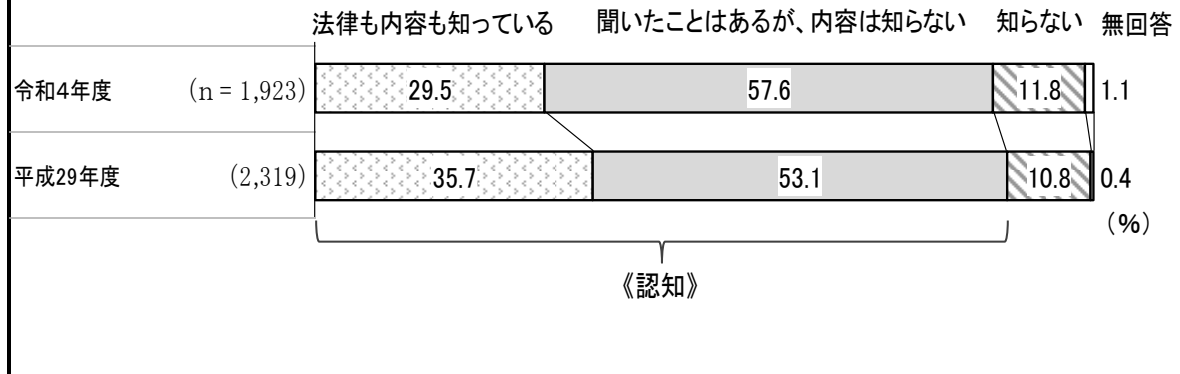


(n = 1,923)

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度を聞いたところ、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(57.6%)が6割近くで最も高く、「法律も内容も知っている」(29.5%)は3割、「知らない」(11.8%)は1割を超えている。

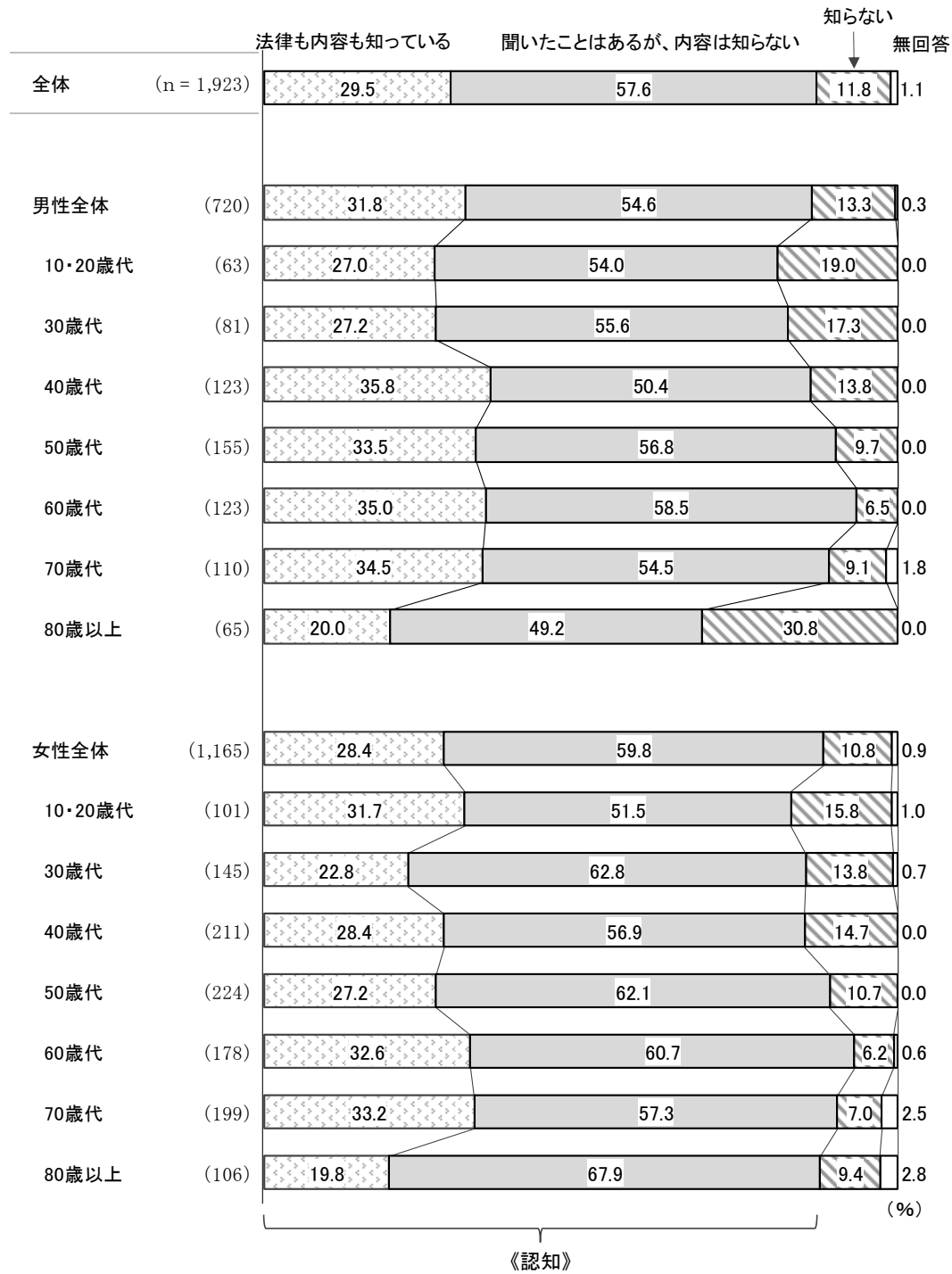
(図14-2-1)

図 1 4 - 2 - 2 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度  
(時系列)



平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《認知》は平成 29 年度 (88.8%) から令和 4 年度 (87.1%) で大きな違いはみられない。(図 1 4 - 2 - 2)

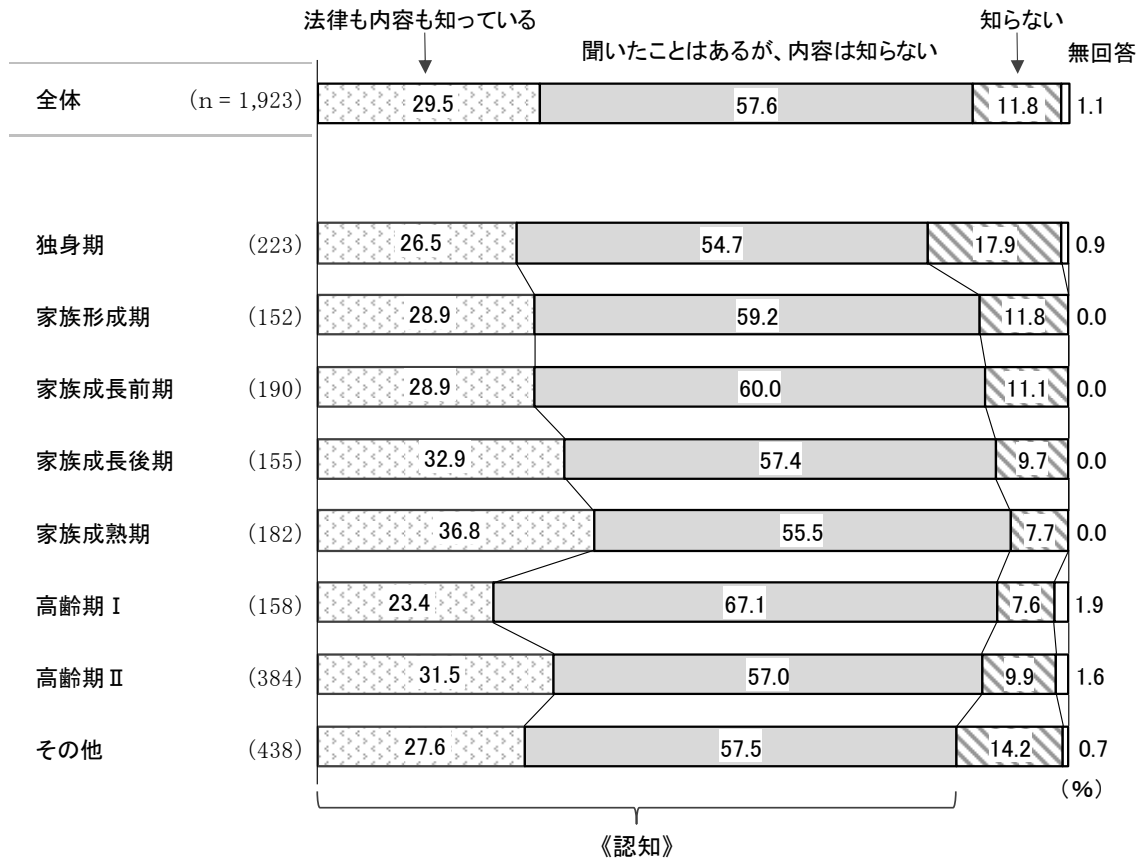
図 1 4 - 2 - 3 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度  
(性・年齢別)



性・年齢別にみると、「法律も内容も知っている」は、男性の40歳代、60歳代、70歳代で3割半ば、女性の10・20歳代、60歳代、70歳代で3割を超えている。「知らない」は男性の80歳以上でほぼ3割、女性の10・20歳代、40歳代で1割半ばとなっている。

(図 1 4 - 2 - 3)

図 1 4 - 2 - 4 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度  
(ライフステージ別)



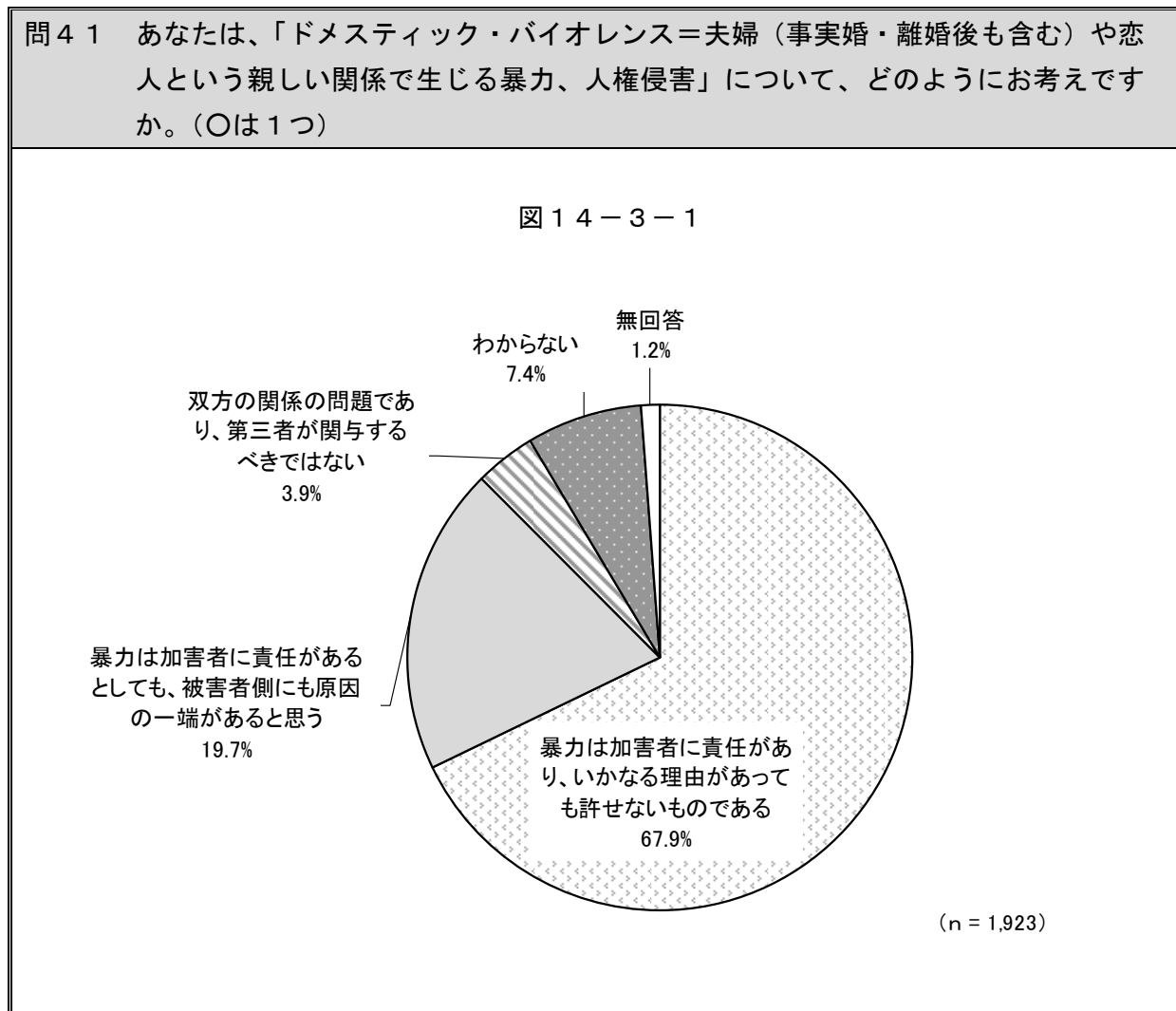
ライフステージ別にみると、「法律も内容も知っている」は家族成熟期で4割近く、家族成長後期、高齢期IIで3割を超えている。「知らない」は独身期で2割近くとなっている。

(図 1 4 - 2 - 4)



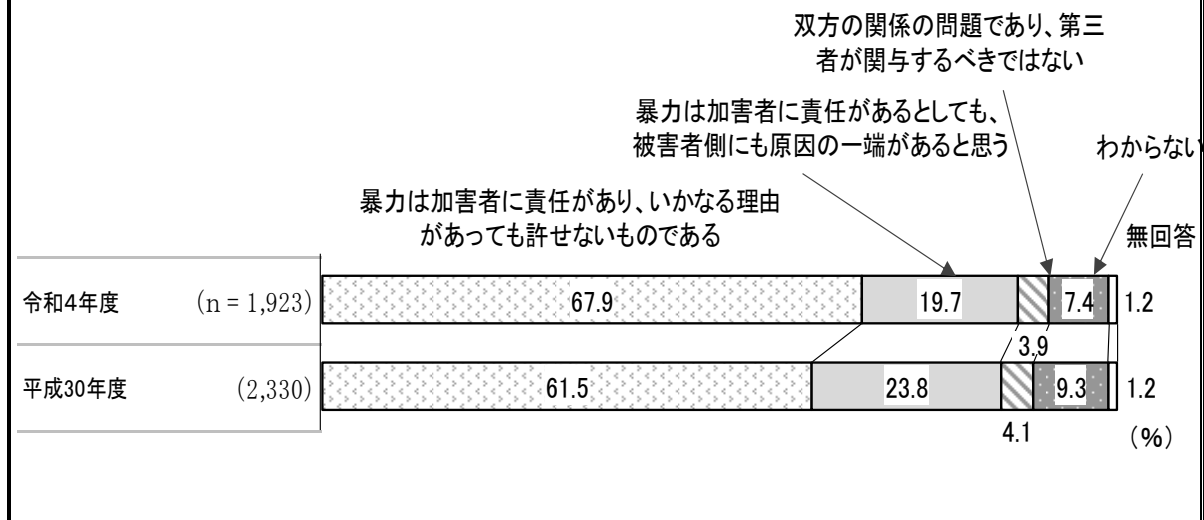
### (3) 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方

- ◎「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」が7割近く



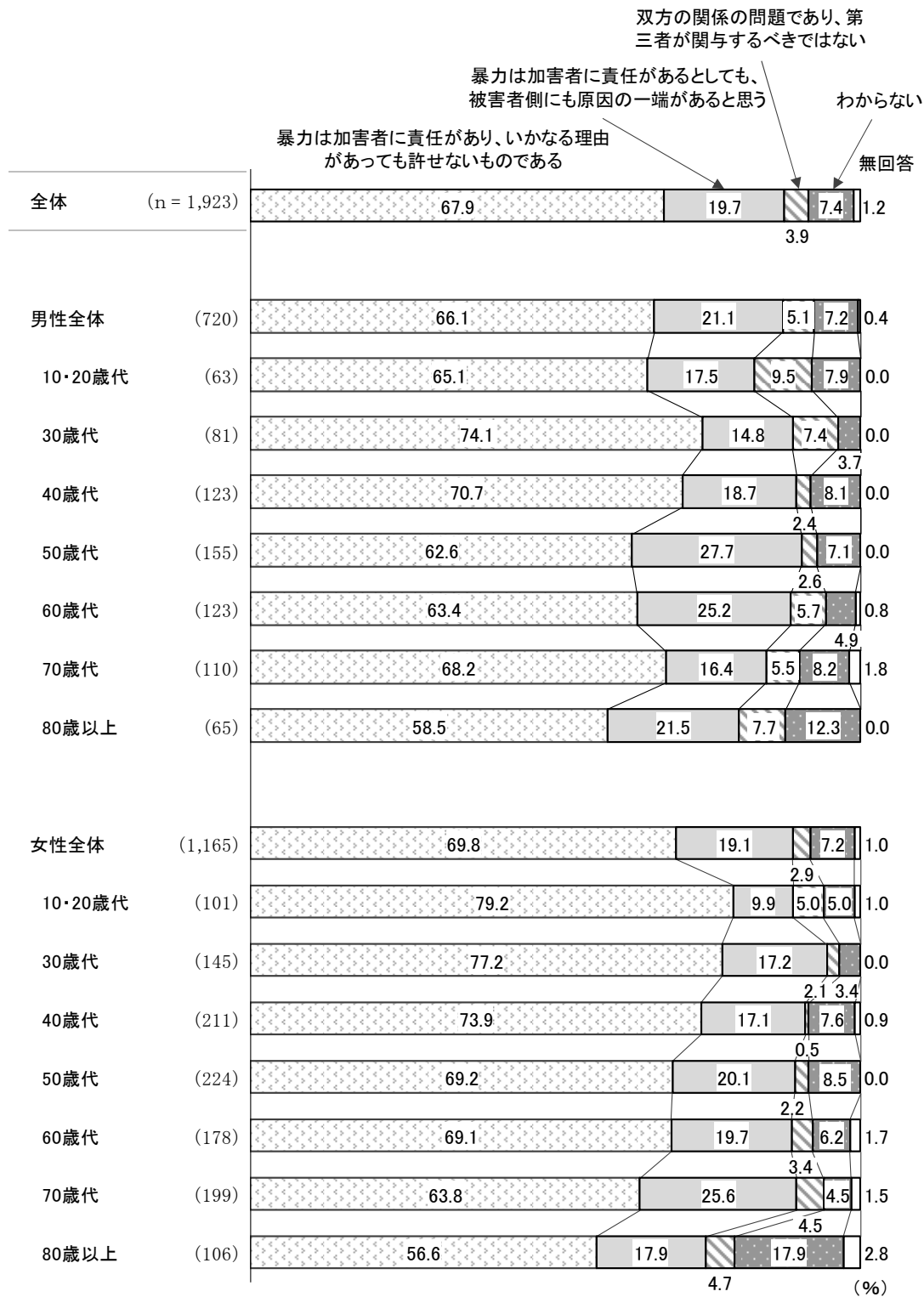
「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方について聞いたところ、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」（67.9%）が7割近くで最も高く、「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」（19.7%）が2割となっている。（図1 4 - 3 - 1）

図 1 4 - 3 - 2 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方（時系列）



平成 30 年度からの時系列の変化をみると、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」は平成 30 年度（61.5%）から令和 4 年度（67.9%）で増加している。（図 1 4 - 3 - 2）

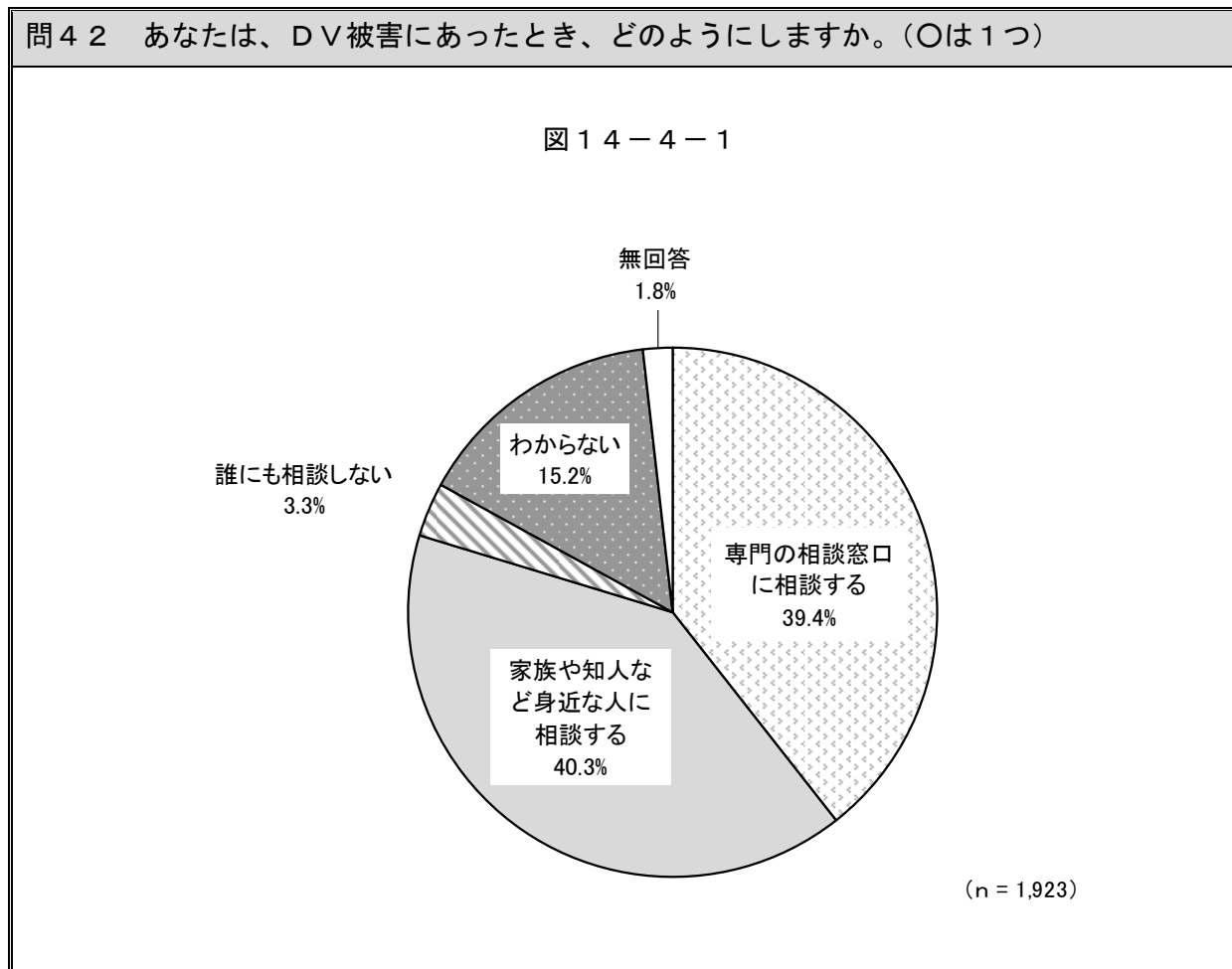
図14-3-3 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」は女性の10・20歳代がほぼ8割、男性の30歳代が7割半ばとなっている。「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」は男性の50歳代で3割近く、女性の70歳代で2割半ばとなっている。（図14-3-3）

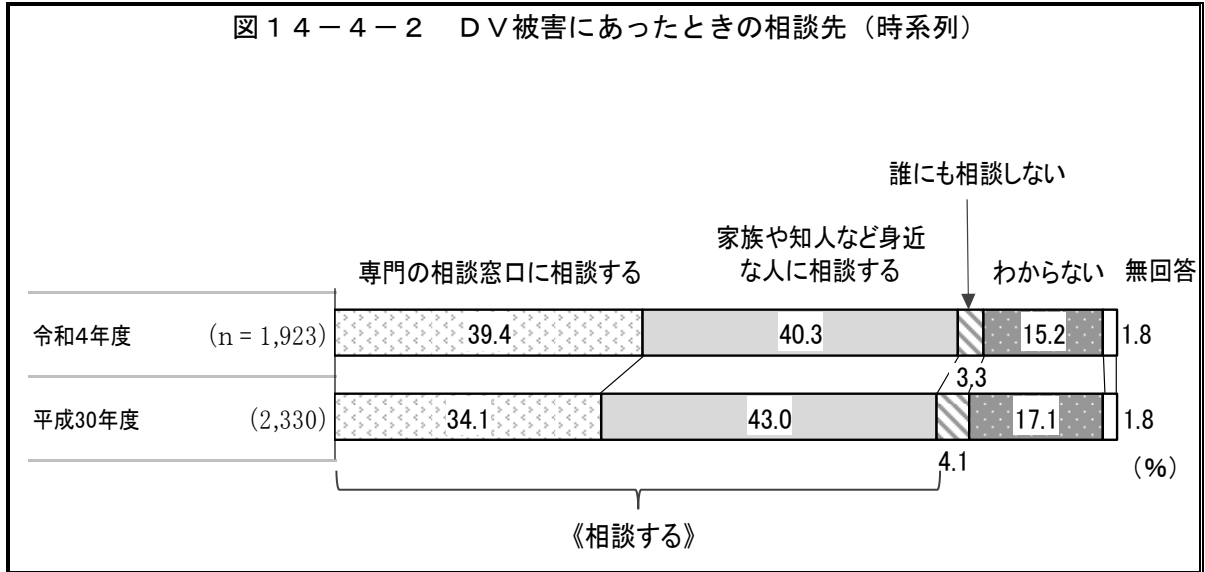
#### (4) DV被害にあったときの相談先

◎「家族や知人など身近な人に相談する」が4割、「専門の相談窓口  
に相談する」がほぼ4割



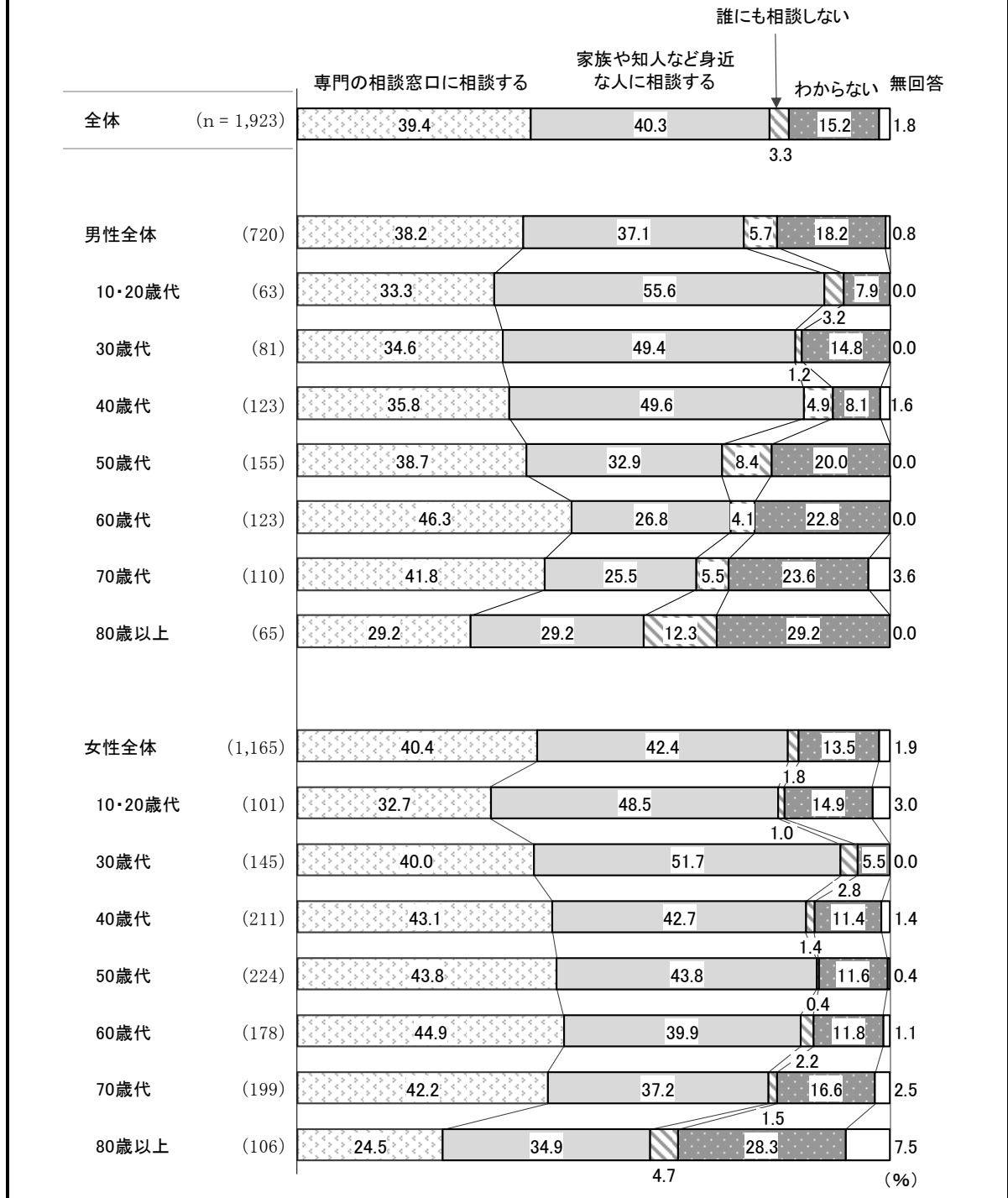
DV被害にあったときの相談先について聞いたところ、「家族や知人など身近な人に相談する」(40.3%)が4割、「専門の相談窓口  
に相談する」(39.4%)がほぼ4割となっている。「誰にも相談しない」(3.3%)は1割に満たない。(図14-4-1)

図 1 4 - 4 - 2 DV被害にあったときの相談先（時系列）



平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《相談する》は平成 30 年度（77.1%）から令和 4 年度（79.7%）で大きな違いはみられない。（図 1 4 - 4 - 2）

図 1 4 - 4 - 3 DV被害にあったときの相談先 (性・年齢別)



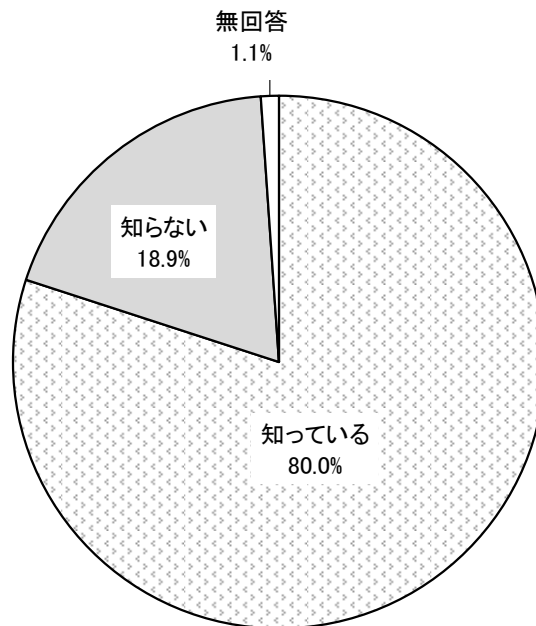
性・年齢別にみると、「家族や知人など身近な人に相談する」は男性の10・20歳代で5割半ば、女性の30歳代で5割を超えている。「専門の相談窓口相談する」は男性の60歳代で4割半ば、女性も60歳代で4割半ばとなっている。(図14-4-3)

(5) 性的マイノリティという言葉の認知度

◎ 「知っている」が8割

問43 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていますか。(○は1つ)

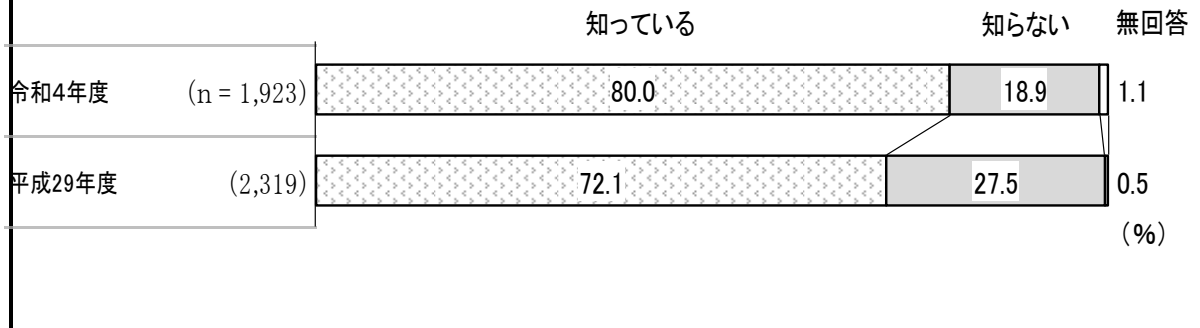
図14-5-1



(n = 1,923)

性的マイノリティという言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」(80.0%)が8割、「知らない」(18.9%)が2割近くとなっている。(図14-5-1)

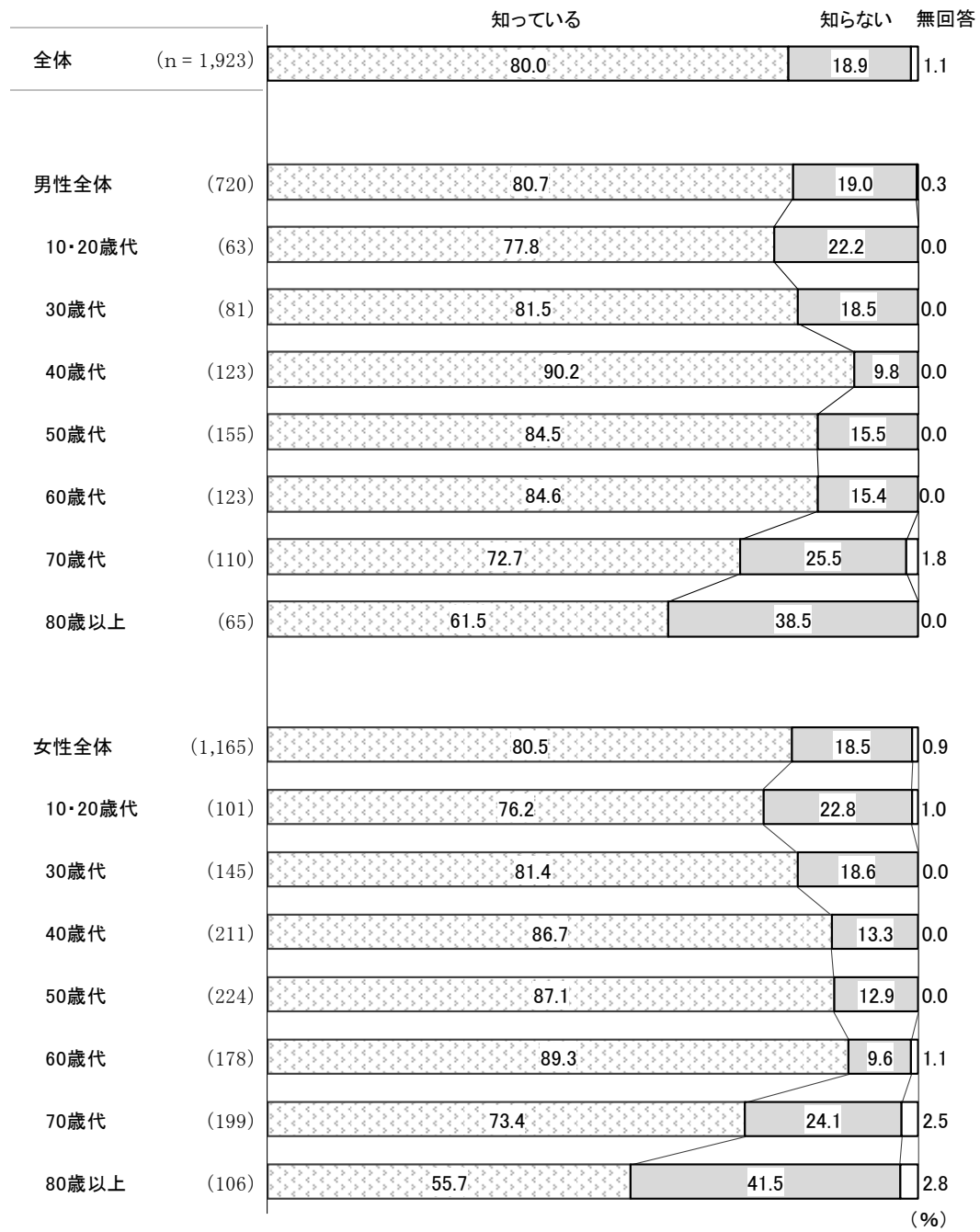
図 1 4 - 5 - 2 性的マイノリティという言葉の認知度（時系列）



平成 29 年度からの時系列の変化をみると、「知っている」は平成 29 年度（72.1%）から令和 4 年度（80.0%）で増加している。（図 1 4 - 5 - 2）



図 1 4 - 5 - 3 性的マイノリティという言葉の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「知っている」は男性の40歳代で9割、女性の60歳代でほぼ9割となっている。（図14-5-3）